

ストレスと言語学習心理

研究分野: 社会科学、心理学

キーワード: ストレス、学ぶ、スマートウォッチ

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 講師(特任) ウィリアム マクドナルド

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/macdonald/>

研究概要

最近完了したウェアラブルデバイス(この場合はスマートウォッチ)を使用した研究(MacDonald, 2022)では、ストレスが学習において重要な役割を果たす可能性が示唆されています。この研究では、言語学習におけるストレスとその役割を扱い、高いストレスと低いストレスの両方を示した学習者の両方が、有害な学習結果を経験したことが示唆されました。

このことは、理論的にも実践的にも多くの示唆を与えており、今後検討する必要があります。これまでの研究では、Horwitzら(1986)の研究に基づいて「言語学習不安」に焦点を当て、ストレスを軽減することを目標としたアプローチを奨励していましたが、今回の新しい研究では、それが望ましくない可能性があり、学習者に不利益をもたらすだけでなく、健康上の結果にもつながる可能性が示唆されました。

さらに、ウェアラブルデバイスを使用した研究手法は、これらの技術が低所得国にとってどれだけ利用しやすいか、また、高所得国がこれらの新しい研究手法から生じる研究を支配する可能性について、多くの倫理的問題を提起しています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

現在、ウェアラブルデバイス技術は、Garmin、Fitbit、Appleなどの海外企業が独占しているように見えますが、日本でも関心が高まっている分野であり、幅広い学問分野からの産学連携の可能性があるとされます。

外部との連携実績等

上記の問題は、SAJU(南アフリカ-日本大学フォーラム)会議でのプレゼンテーションで議論するために提出されており、この分野での将来の研究に関して何らかの国際協力が行われることが期待されません。